

三滝グリーンチャペル 2017年 3月 12日

シリーズ●新約聖書入門

賛 美

# 揺れ動く地に立ちて なお十字架は輝けり



## ヘブライ人への手紙 13章10～15節

「わたしたちには一つの祭壇があります。幕屋に仕えている人たちは、それから食べ物を取って食べる権利がありません。なぜなら、罪を贖うための動物の血は、大祭司によって聖所に運び入れられますが、その体は宿営の外で焼かれるからです。

## ヘブライ人への手紙 13章10～15節

それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われたのです。

だから、わたしたちは、イエスが受けられた辱めを担い、宿営の外に出て、そのみもとに赴こうではありませんか。

## ヘブライ人への手紙 13章10～15節

わたしたちはこの地上に永続する都を持っておらず、来るべき都を探し求めているのです。

だから、イエスを通して賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神に献げましょう。」

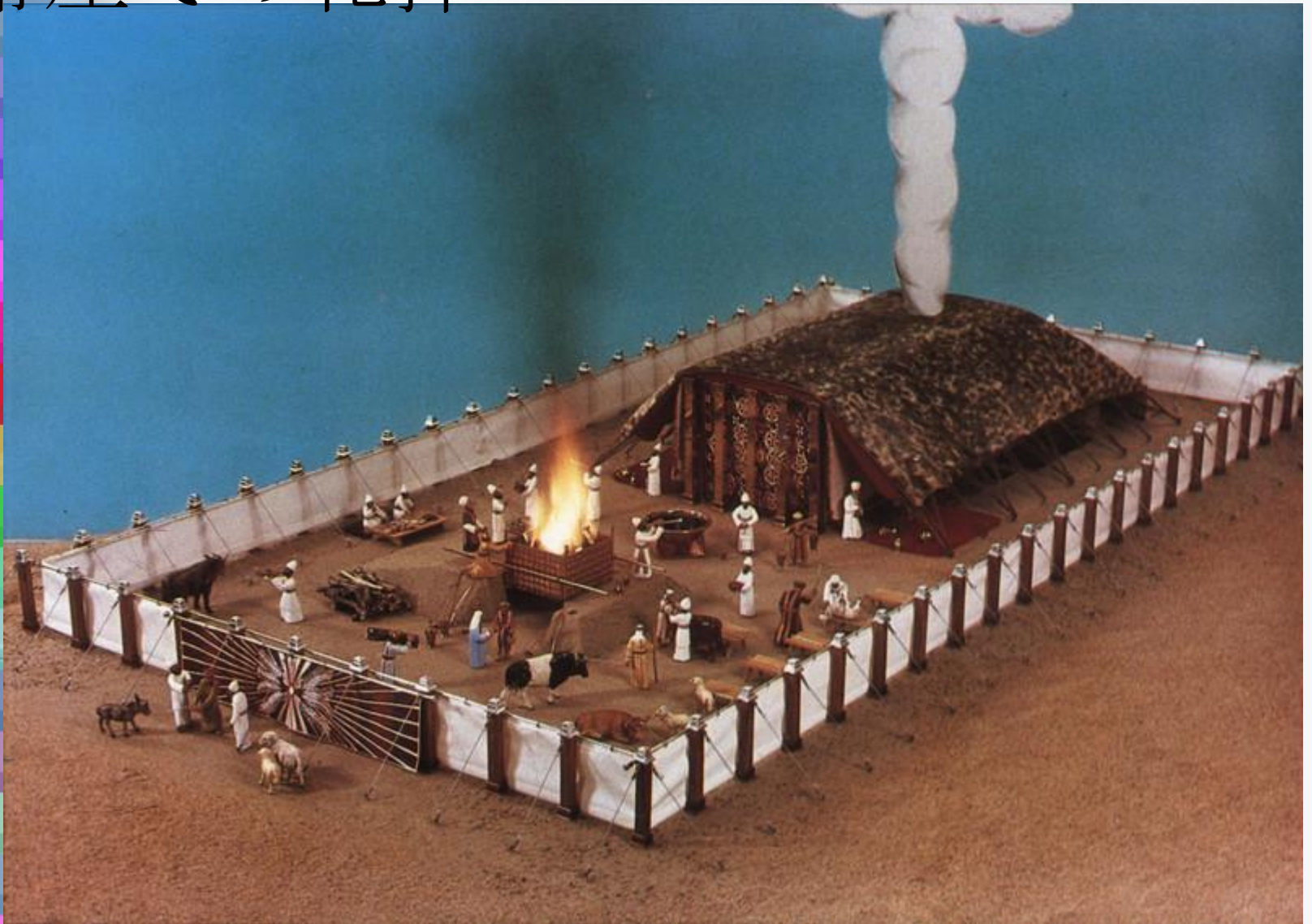


「だから、イエスを通して  
賛美のいけにえ、すなわち  
御名をたたえる唇の実を、  
絶えず神に献げましょう。」

## I. 賛美のいけにえ

- ①かつて礼拝には、いけにえが必要であつた。動物の犠牲（死）をもって、聖所での礼拝は許された。

# 幕屋での礼拝



# I. 賛美のいけにえ

- ② イエス・キリストは十字架にかかり、私のいけにえとなってくださった。





# I. 賛美のいけにえ

- ③その犠牲（死）のゆえに手ぶらで  
私たちは賛美を捧げることができる。  
賛美がいけにえの代わりとなる。  
→賛美のない礼拝は礼拝ではない。



「だから、イエスを通して  
賛美のいけにえ、すなわち  
御名をたたえる唇の実を、  
絶えず神に献げましょう。」

## Ⅱ．御名をたたえる唇の実

①賛美は「信仰の告白」である。

→ “たたえる” とは、“告白する”  
という意味

# いっくしみ深き（新聖歌 209番）



# いづくしみ深き（新聖歌 209番）

いづくしみ深き 友なるイエスは  
罪 咎（とが） 憂いを  
取り去りたもう  
心の嘆きをつつまず述べて  
などかは降ろさぬ  
負える重荷を





だから、イエスを通して  
賛美のいけにえ、すなわち  
御名をたたえる唇の実を、  
絶えず神に献げましょう。」

## Ⅱ．御名をたたえる唇の実

- ②すべてを与えられ、赦された私たちが  
神様にできることは  
「御名をたたえる」 ことだけである。

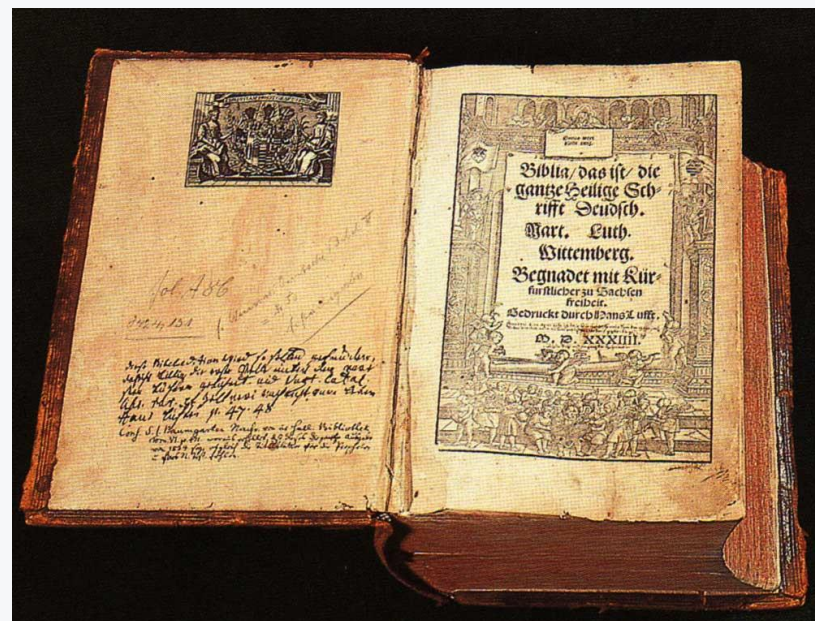
だから、イエスを通して  
賛美のいけにえ、すなわち  
御名をたたえる唇の実を、  
絶えず神に献げましょう。」

## Ⅱ. 御名をたたえる唇の実

③ 私たちの唇を、賛美と生み出すために  
用いましょう！



# 神はわがやぐら (新聖歌 209番)



神はわがやぐら わが強き盾  
苦しめる時の 近き助けぞ  
おのが力 おのが知恵を 頼みとせる  
陰府(よみ)の長(おさ)も など恐るべき

「だから、イエスを通して  
賛美のいけにえ、すなわち  
御名をたたえる唇の実を、  
絶えず神に献げましょう。」

### Ⅲ. イエスを通して… 絶えず神に献げましょう

- ① 賛美は神に届くのは、  
イエスの十字架のお陰である。



# Ⅲ. イエスを通して… 絶えず神に献げましょう

## ②賛美は能動的な礼拝行為



## 【レビ記 1章3—4節】

牛を焼き尽くす献げ物とする場合には、無傷の雄をささげる。奉納者は主に受け入れられるよう、臨在の幕屋の入り口にそれを引いて行き、手を献げ物とする牛の頭に置くと、それは、その人の罪を贖う儀式を行うものとして受け入れられる。



# Ⅲ. イエスを通して… 絶えず神に献げましょう

② 「絶えず」とは  
“あらゆる状況下で” という意味





ヘンデル作曲 “メサイア”  
(メシア：救世主)

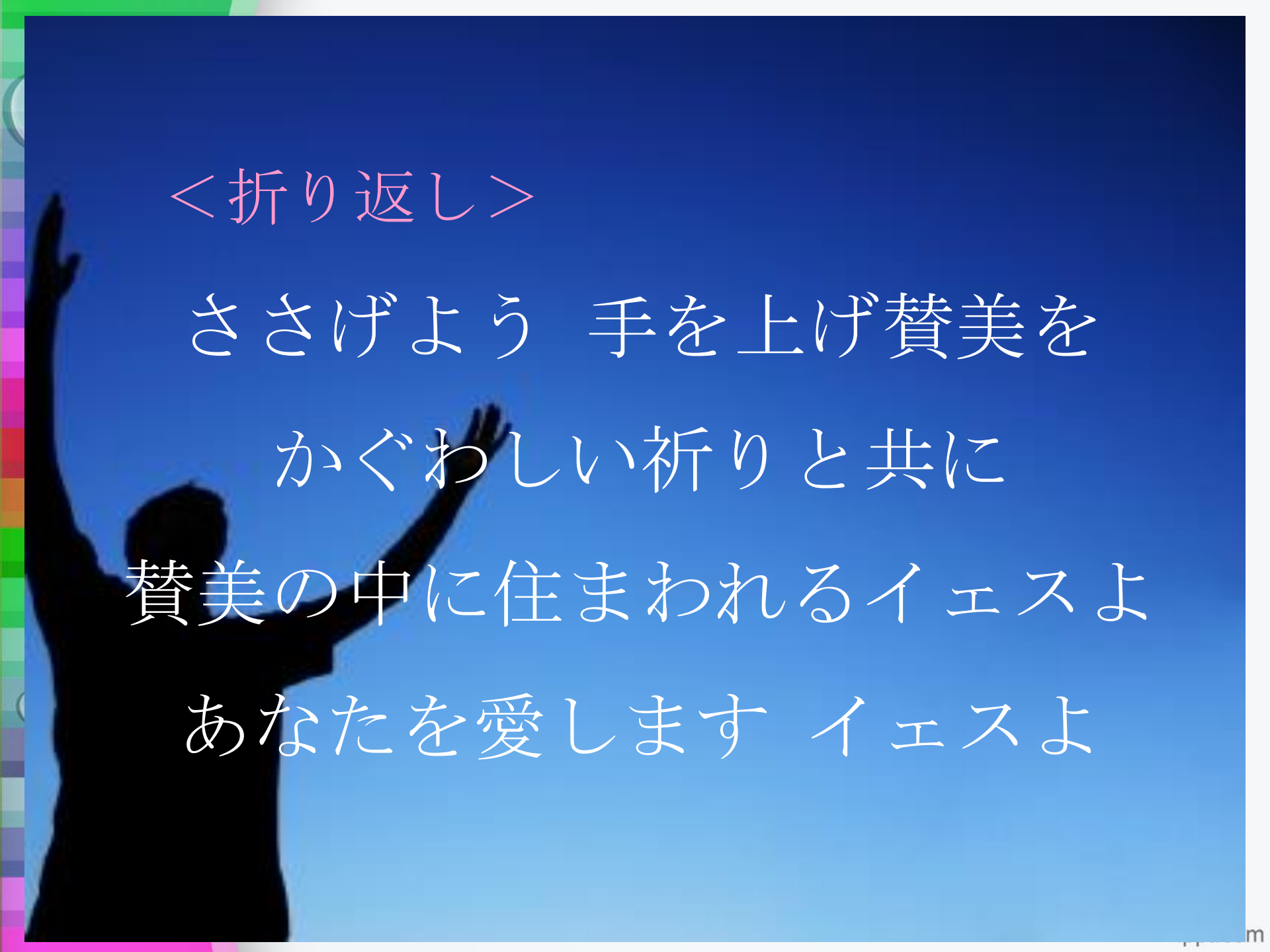
イザヤ書53:3

「彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、  
悲しみの人で病を知っていた。」



## 【御名により集まるとき】

イエスの御名により集まる時  
共に 主もここにおられる  
だから 喜びもて 絶え間なく  
賛美のいけにえ捧げよう



<折り返し>

ささげよう 手を上げ賛美を  
かぐわしい祈りと共に  
賛美の中に住まわれるイエスよ  
あなたを愛します イエスよ